

副所長が「切腹」を迫る発言!

「責任追及」の姿勢を改めよ!

9月12日、業務中に充電していたとのことで乗務を外され「日勤」に指定されていた組合員が勝見副所長から事情聴取されました。

その中で、勝見副所長は「切腹もんとは思わないのか」と本人に責任を追及しました。この発言は誰が聞いても、自らの死をもって責任を償えという言葉です。

いくら、仕事中にはやってはいけないことをやったとしても、その原因を聞き出し同じ事を繰り返さないようにすることは会社・管理者の役割ではないでしょうか。

しかし、本人を追い込み、精神的に参ってしまうような発言は断じて許せるものではありません。直ちに分会は、勝見副所長に対して、「切腹」の言葉で本人の責任を追及することはパワーハラスメントであり断じて許さないと抗議しました。

副所長は「脈略のなかで」と返答しましたが「脈略」があれば何を言ってもいいのでしょうか。何か起きた時に勝見副所長は責任を取れるのでしょうか。会社の間違った指導である「原因究明よりも責任追及」がこうした発言を生んでいると言えます。

かつて、大阪第二運輸所の前身である大阪車掌所の時に、行き過ぎた事情聴取によって夏の制服のままマンションの上から自ら命を絶った社員がいました。このとき会社は一切、コメントも出ませんでしたし、当該のユニオン組合も沈黙するだけでした。同じ組合員どうしでの出来事なのに何も行動を起こさない組合っておかしくないでしょうか。

大二運では少し前にも私物携帯電話の使用をしてしまった社員がいます。現在、その方は会社を休んでおられます。この方はユニオン組合員であり、会社を休んでる原因は特定出来ませんが、今回のような事象があったことから考えると相当、本人が参ってしまう何かがあったことが容易に想像できます。

私たちは、行き過ぎた会社の行為には労働組合として抗議し、仲間を守ります。

会社として本人に謝罪せよ!